

が始まっている。

四番地が朝日長左衛門さん、北に林九右衛門さん、福田又兵衛さん、沖田九右衛門さん、十の一、二に山岸與四兵衛・高林右衛門さんが狭い地所に前後している。よの十四番地は高塚善四郎、隣が十五・十七合併の亀田善三郎、西に亀田甚吉・細い道を挟んで、同じく亀田甚吉の地所である。

北が高田市右衛門さんで、亀田さんとの高田さんの間は現在も残っている「吉原釜屋道」であろう。

高塚・亀田さんの前の道路を挟んで、若林弥右衛門さん、高塚市右衛門さん、東に、東八郎右衛門さん、一村七郎兵衛さん、北側は朝本栄吉、東に東與四兵衛さんが住んでいる、この北側は今も残る西川へ出る道がある、住民に便利な「川戸」「こうど」であろう。

「吉原釜屋道」を吉原釜屋に向かつて、だらだら坂を登って行くと稲荷社があったが、この時分に存在したのであろうか。

この稲荷社は、この項の最後に出てくる明福万吉さんの西側にあった屋敷神の社であったと聞いたことは、今でも記憶に鮮明である。

何方か教えて欲しいものである。

高田さんの北に岡田栄次郎さんよの二十番地、小西仁右衛門さん、その北が玉井吉二郎さん、山本源右衛門さんは、よの二十六番地である、どんな町・村を訪ねても、姓に本が着いている家は「草分け」の家ではなからうか。

よの二十八番地は末政太郎兵衛さんになっているし、その後ろに吉原

清兵衛で、よの三十番地は白江半三郎さん、北に三十三番地の高塚太字兵衛さん、三十四番地は朝川金三郎、福井宇衛門さん、でこの辺りが福島で最も標高の一番高い砂丘地であったし、砂丘の上を『源兵衛山』と呼んだのも懐かしい子供時代を思い出す。

「げんべい山」の裾の道を挟んで、向かい側は中田弥右衛門さんは、よの百四番地、西に百八番地に田上源右衛門さん、百五番地に北村清右衛門さん、百二番地に重原亦八さん、百三番地には地所持ちの吉田忠次郎さん、九十八番地には吉田吉三郎さん、西側に九十九の二番地に吉田吉右衛門さん、更に西の川側に福田市郎兵衛さんの地所があり、西川までの「川戸」道が東に向かっている。

この道を挟んで北側の向かいには福益忠次郎さんよの九十六番地である、北側に玉井作次郎さんが九十二の二番地、福田市郎平さんと高塚市右衛門さんの地所を飛んで八十七番地は北野與右衛門さんと北側に西川に下り、また「げんべい山」へも行ける十字路の道がある。

村本仁三郎さんはよの四十一番地で、向かい側に米沢傳兵衛さん、北に高山岩松さん、村吉儀右衛門さんはよの四十六番地である。

村吉さんの前は道を挟んで吉岡さんの広大な八十一番地の地所が西川まで伸びている。

七十九番地は犬丸忠右衛門さん、根田四郎兵衛さんの西側に清水甚兵衛さんの七十六番地、この道も十字路になっており、七十四番地には北村清五郎、北隣は竹田清助さん、向かいに秋常ふよさんの家があり、南のよの五十一番地は角上傳右衛門、南は朝本栄吉さんの地所